

2025年11月17日
株式会社 毎日放送

映像'25「奪われた琉球遺骨～研究か尊厳か～」 2025年度 第63回ギャラクシー賞 テレビ部門上期 奨励賞 受賞

放送批評懇談会が、日本の放送文化の質的な向上を目的とし、優秀な番組・個人・団体を顕彰する2025年度第63回ギャラクシー賞のテレビ部門上期選考において、このたび下記の番組が「奨励賞」を受賞しましたのでご報告いたします。

記

【テレビ部門 奨励賞】

番組名 映像'25「奪われた琉球遺骨～研究か尊厳か～」
放送日 2025年9月28日(水)放送
受賞者 プロデューサー: 和田 浩 (報道情報局番組センター)
ディレクター: 吉川 元基 (報道情報局報道センター)

内 容

「奪われた琉球遺骨～研究か尊厳か～」

沖縄県今帰仁村にある百按司(むむじやな)墓は海に面した崖の中腹にある。この墓から研究目的で持ち去られた遺骨が96年ぶりに故郷に戻った。ただし「学術資料」として保存するという条件がつけられていた。遺骨を巡っては、子孫らが2018年、当時遺骨を保管していた京都大学に返還を求めて提訴。2023年の大阪高裁判決では裁判長が「遺骨は、単なるモノではない。ふるさとで静かに眠る権利があると信じる」と異例の付言をした。

現在、故郷に帰ってきた遺骨は言わば「モノ」として今帰仁村教育委員会が管理する収蔵庫で眠っている。子孫にとって遺骨は敬意や崇拜の対象であり百按司墓に戻すことを求めているが、かなえられていない。研究目的で収集した遺骨の本来の地への返還は世界の潮流になっている。そこにはかつての「科学至上主義」を反省する研究者らの姿がある。

日本はどうだろうか…。沖縄では先祖の遺骨を神として大切にされてきた。しかし日本的人類学の研究者らは「古人骨は国民共有の文化財である」と学術的価値を主張する。

遺骨は誰のものなのか。そしていかなる地で眠るべきなのか。遺骨のあるべき姿や研究の未来を問う。



以上
本件問い合わせ先:コンプライアンス局広報部